

第36回日本分子生物学会・年会企画 アンケート 集計結果

ポジション別：学部学生・大学院生

回答者数：80名

ポジションと研究分野に関する設問

回答者数: 80名

質問1. あなたのポジションは？

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 学部学生	1	1.3%							
回答2 大学院生	79	98.8%							
回答3 ポスドク	0	0.0%							
回答4 大学・研究所等の研究者 (助教、助手)	0	0.0%							
回答5 大学・研究所等の研究者 (講師、准教授)	0	0.0%							
回答6 大学・研究所等の研究者 (教授)	0	0.0%							
回答7 企業研究者	0	0.0%							
回答8 その他	0	0.0%							
合計	80								

※割合は合計を母数にして算出しています

質問2. 専門とされている研究分野についてお聞きます。＜複数回答可＞

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 生物系	65	65.0%							
回答2 農学系	5	5.0%							
回答3 医歯薬系	25	25.0%							
回答4 理工系	4	4.0%							
回答5 情報系	1	1.0%							
回答6 その他	0	0.0%							
合計	100								

※割合は合計を母数にして算出しています

第1部 研究倫理と不正についての一般的な設問

回答者数: 80名

質問3. ライフサイエンスにおいて、研究不正は大きな問題だと思いますか？

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 そう思う	62	77.5%							
回答2 ある程度そう思う	14	17.5%							
回答3 あまりそう思わない	2	2.5%							
回答4 そう思わない	2	2.5%							
回答5 わからない	0	0.0%							
合計	80								

※割合は合計を母数にして算出しています

質問4. ライフサイエンスにおいて、研究不正は極めて稀なケースだと思いますか？

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 そう思う	3	3.8%							
回答2 ある程度そう思う	17	21.3%							
回答3 あまりそう思わない	32	40.0%							
回答4 そう思わない	22	27.5%							
回答5 わからない	6	7.5%							
合計	80								

※割合は合計を母数にして算出しています

質問5. 研究不正を目撃などしたことがありますか？

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 所属する研究室内で実際に目撃、経験したことがある	6	7.5%							
回答2 所属する研究室内で噂があった	2	2.5%							
回答3 近傍の研究室内からそのような噂を聞いた	24	30.0%							
回答4 具体的には聞いたことがない	47	58.8%							
回答5 回答なし	1	1.3%							
合計	80								

※割合は合計を母数にして算出しています

質問6. 研究不正は日本のライフサイエンスの現状や将来の進展に悪影響があると考えますか？

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 そう思う	53	66.3%							
回答2 おおむねそう思う	20	25.0%							
回答3 あまりそう思わない	5	6.3%							
回答4 そう思わない	1	1.3%							
回答5 わからない	1	1.3%							
合計	80								

※割合は合計を母数にして算出しています

質問7. 研究不正に対しては日本の現行システムは十分に対応できると思いますか？

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1 十分対応できる	0	0.0%						
回答2 ある程度対応できる	7	8.8%	■					
回答3 あまり対応できない	35	43.8%	■					
回答4 対応できない	24	30.0%	■					
回答5 わからない	14	17.5%	■					
合計	80							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問8. 研究不正に対する当該研究機関による調査、報告は適当であると思いますか？

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1 適当である	4	5.0%	■					
回答2 おおむね適当である	26	32.5%	■					
回答3 あまり適当ではない	31	38.8%	■					
回答4 適当ではない	15	18.8%	■					
回答5 わからない	4	5.0%	■					
合計	80							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問9. 研究不正の調査はどのような機関が対応すればいいと考えますか？ <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1 当該機関(大学、研究所など)	23	18.3%	■					
回答2 研究費の出資機関(文部科学省など)	29	23.0%	■					
回答3 第三者の中立機関	69	54.8%	■					
回答4 その他	3	2.4%	■					
回答5 わからない	2	1.6%	■					
合計	126							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問10. 研究不正を取り締まる外部中立機関の設置が望ましいと思いますか？

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1 そう思う	35	43.8%	■					
回答2 おおむねそう思う	30	37.5%	■					
回答3 あまりそう思わない	7	8.8%	■					
回答4 そう思わない	3	3.8%	■					
回答5 わからない	5	6.3%	■					
合計	80							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問11. 関連学会が、研究不正の調査に関わる方が望ましいと思いますか？

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	そう思う	13	16.3%						
回答2	ある程度そう思う	22	27.5%						
回答3	あまりそう思わない	34	42.5%						
回答4	そう思わない	7	8.8%						
回答5	わからない	4	5.0%						
	合計	80							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問12. 研究不正に対する研究機関の対応は十分だったと思いますか？

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	十分だった	0	0.0%						
回答2	おおむね十分だった	24	30.0%						
回答3	あまり十分でなかった	25	31.3%						
回答4	十分でなかった	14	17.5%						
回答5	わからない	17	21.3%						
	合計	80							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問13. 研究不正の原因はどちらだと思いますか？ <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	個人の問題	47	40.2%						
回答2	構造の問題	63	53.8%						
回答3	その他	7	6.0%						
	合計	117							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問14. 研究不正を減らすためにはどのような対策が必要ですか？ <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	教育	55	49.1%						
回答2	厳罰化	38	33.9%						
回答3	その他	19	17.0%						
	合計	112							

※割合は合計を母数にして算出しています

第2部 科学論文不正疑惑についての本学会の対応と年会ワークショップに関する設問

回答者数：80名

質問16. 不正や研究倫理問題に関して、本学会の対応は十分だと思いますか？

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	十分だった	6	7.5%						
回答2	おおむね十分だった	23	28.8%						
回答3	あまり十分でなかった	10	12.5%						
回答4	十分でなかった	4	5.0%						
回答5	わからない	37	46.3%						
	合計	80							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問17. 年会における研究不正対応の企画について、どう思いますか？

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	やるべきである	34	42.5%						
回答2	ある程度はやるべきである	37	46.3%						
回答3	あまりやるべきでない	3	3.8%						
回答4	やるべきでない	3	3.8%						
回答5	わからない	3	3.8%						
	合計	80							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問18. 第36回年会で取り上げるべき観点を以下からお選びください。 <複数回答可>

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	若手の倫理教育	45	25.4%						
回答2	PIの倫理教育	39	22.0%						
回答3	研究不正の背景	48	27.1%						
回答4	研究不正への対応策	43	24.3%						
回答5	その他	2	1.1%						
	合計	177							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問19. 第36回年会でのワークショップで、討論するのが適当と思われる相手をお選びください。

	項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1	学会の責任者	3	3.8%						
回答2	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	49	61.3%						
回答3	トップジャーナルの編集者	17	21.3%						
回答4	研究費助成機関	6	7.5%						
回答5	その他	5	6.3%						
	合計	80							

※割合は合計を母数にして算出しています

質問1. あなたのポジションは？

回答者 番号	その他記述
	記述なし

質問2. 専門とされている研究分野についてお聞きます。〈複数回答可〉

回答者 番号	その他記述
	記述なし

質問9. 研究不正の調査はどのような機関が対応すればいいと考えますか？ <複数回答可>

回答者 番号	その他記述
※	IAEAのような国際的調査機関をUNESCOに設け、その調査団が調査することが妥当だと考えます。
※	当該機関の調査に加えて、他の機関による二重三重のチェックが必要だと思う。
※	コストとの兼ね合いがあるが、彼らが失墜すると利益を得るであろうライバル関係の者と当該機関の双方が行った方が信頼度は上がる。両者の見解に乖離がある場合あるいは悪い方向に一致した場合は、一定の信頼度で不正の存在が予想される。ただし、情報漏洩の問題があるため、どの程度調査に情報を出すべきかは別の重要な問題である。

質問10. 研究不正を取り締まる外部中立機関の設置が望ましいと思いますか？

回答者番号	回答	選んだ理由
※	そう思う	当該機関にしても出資機関にしても、研究不正関係者が偉ければ偉いほどなんらかの利害関係にある可能性が高く中立・公正な審判を行えるとは考えにくい。
※	そう思う	大学も当該研究者も文科省も「俺は被害者だ!!!」としか言わないのでこれらにやらせるとらちがあかない。
※	そう思う	業績が出世のために必要不可欠であるが、研究不正はいかなる理由があろうと許されるべきでない。不正をすれば、必ずマイナスに働くような仕組みを構築しなければならない。
※	そう思う	当該機関が取り締まる場合、不正を隠蔽する、または不正の内容を軽く見積もる心理がはたらいてしまう可能性がある。また、機関ごとに判断基準が異なってしまうのが問題だと考える。一方、研究費の出資機関が審査する場合、専門外の審査官が不正の内容を適当に判断できるとは思えない。また、この場合も機関ごとに異なる判断基準が存在してしまう。したがって、不正摘発とその処置を公正に取り締まるためには第三者機関が必要と考える。
※	そう思う	研究不正は完全な第三者季刊でない現実が明らかににならない。
※	そう思う	外部機関が設立されることにより、細かな規定が明確化されるからです。今はボスが全てになっており、比較対象がないことが問題。
※	おおむねそう思う	外部中立機関が取締りを行わなければ、研究における利害関係などが不正の取締りに影響する可能性が考えられるため
※	おおむねそう思う	当該機関などが行っても、隠ぺいもしくは対立による濡れ衣を着せられることも考えられるため、公平中立に審査するには、独立した機関が必要となると思うから。
※	おおむねそう思う	外部中立機関と当該機関とで二重に不正を取り締まることで、体制を強化することができるから。また、各分野の専門家をそのような機関で雇用することで、博士号取得者の雇用拡大にもつながるから。
※	おおむねそう思う	不正の有る無しに関わらず、チャック機関を置き、取り締まる体制を整えておくことが、いざ不正がおきた時に対処できる。自分たちは不正はしないから設置する必要がないというわけではない。取り締まる機関が無い研究機関、大学、国から配信される学術論文は信用できない、くらの雰囲気の世界中で盛り上がれば、より良い科学の発展につながると思う。
※	おおむねそう思う	該当者間では、見逃される可能性があるため。第三者機関が存在しているということ自体が、抑止力として機能する場合もある。
※	おおむねそう思う	研究不正を取り締まる場合その分野の専門的知識が必要となり、現在問題となっている博士の就職問題を解消する手の一つとなり得る。しかし日本国内の諸団体の例を見る限り、癒着などの理由により中立機関が中立性を失う可能性があると思われる。
※	おおむねそう思う	当該機関が研究不正の調査をする場合、公正な調査が行われるのかという不安がある。また、研究機関は極力、研究活動に専念すべきであり、それ以外の仕事を負うべきではないと考えるためである。さらに、研究費の出資機関は専門的な分野を十分に把握しているのか疑問に感じるため。
※	おおむねそう思う	論理的にはうまく行くやり方ではあると思うが、必要だろうが完全には同意出来ない。偽装を見抜くためにある程度訓練された審査官が必要であるし、それを各分野ごとに網羅出来るように揃える予算があるのか、疑問である。アメリカの予算規模で可能なことをこの国で無理にやろうとしてもうまく行かず、中途半端になりがちなのはよく知られている事であろう。
※	あまりそう思わない	不正をしていなくても監視されるのは嫌だ。取り締まることより、起こらないために研究室の環境を調査してほしい。
※	あまりそう思わない	研究という事柄上、大学の教授などの専門家で構成されることが想定されるが、その人員の中立性を保証することが難しいと思うため。
※	そう思わない	日本の体制だと形だけになって金の無駄になると思う。全部を賄いきれないし、できること(＝一部だけ)を規制しても意味がない。連帯責任性などにしたほうが日本には向いていると思う
※	そう思わない	そのような外部中立機関が研究者の天下り先になり、名目上の機関になる可能性が予想されるため。
※	わからない	絶対的中立というのはありえないため

質問11. 関連学会が、研究不正の調査に関わる方が望ましいと思いますか？

回答者番号	回答	選んだ理由
※	そう思う	少なくとも傘下の論文誌(分生ならGenes to Cells)掲載論文に対しては何らかの処分を下すべき。
※	そう思う	同業他者しか高度に偽装された不正は見抜く事が出来ないため、結局は自浄作用が必要であると考えている。このとき、リーダーシップをとる組織は必ず必要であるとする。
※	ある程度そう思う	関連分野からの調査機関の方が、より明らかにしやすいと考えます。
※	ある程度そう思う	必要に応じて、不正対象の研究に対して見解を述べる等で関わるべきではないか。
※	ある程度そう思う	大きな学会が率先して関わっていくことが望ましいと思う。そのような責任もあると思う。
※	ある程度そう思う	専門的知識を持った第三者による調査が妥当だと考えるため、関連学会の参加は望ましい。しかし厳密に「第三者」となり得るかは疑問である。
※	あまりそう思わない	あまり関連学会が関与すると、中立性が疑わしくなってしまうと思う。
※	あまりそう思わない	研究の不正は研究者により発生するのであるから、研究者の集団である学会が調査することはあまり意味をなさないと思うため。
※	あまりそう思わない	たかが一学会がそこまでするのは、でしゃばり過ぎだと思う。責任者もよく分からなくなるし、何より学会の有力者(いわゆる大御所先生)の息がかかたりする危険性(もちろん、大御所がみんなワルなんて言ってません)は、可能な限り排除すべき。
※	あまりそう思わない	第三者機関の方が適切であるように思うから。
※	あまりそう思わない	その他の機関が担当するほうがよい。
※	あまりそう思わない	原因究明や証拠探しよりは、調査現状を受けてどうすべきかの具体的改善案を提示すべき。
※	そう思わない	学会自体が中立な立場ではないと考えるため。
※	そう思わない	全部をまかないきれない点で同上
※	そう思わない	学会が調査に人員や資金を割くことは難しい。また不正を行う研究者が学会において重要な位置についている場合には、調査が難しい。
※	わからない	内部の人間が関与する限り、不正は隠蔽される可能性が高い。

質問12. 研究不正に対する研究機関の対応は十分だったと思いますか？

回答者番号	回答	選んだ理由
※	おおむね十分だった	○大の○○研等、きちんと不正した研究室は裁かれている。ただ、たまたま所属していただ けの学生の、その後の人生までフォローできているかは心配。実際どうなのでしょう。調べて ください。
※	おおむね十分だった	抑止力の観点からも、可能であればより厳重な処分が望ましいと思われる。
※	あまり十分でなかった	正確を期すため、予備調査・本調査と時間がかかってしまうのは仕方ないが、ある程度は定 期的に公表した方がいいのではないか。
※	あまり十分でなかった	論文のねつ造を行った研究者が、以前として教授として研究を続けている例があるため。
※	あまり十分でなかった	不正が起きた原因や背景、今後の対策などが、多くの人に周知されていない。
※	あまり十分でなかった	私は、所属研究室の助教に、勝手にパソコンデータをコピーされました。しかしそれを教授 に訴えても隠べいされ、所属部局に訴えても隠べいされました。私のケースだけではなく、こ れまでも、他のケースの場合でも、問題が生じた機関自体が、問題が外に発覚することを恐 れて隠べいするケースが多数あると思います。隠べい体質を改善し、研究不正には厳然と した対処を行う風を、全体的に高めていかなければ、今後も、研究不正は陰で行われ続 けると思います。
※	十分でなかった	臓器にガンが見つかりその部位だけを切除し臓器を残すことはできます。しかし転移の可能 性は0ではありません。そのリスクを完全に無くすには全適するのが妥当です。ようするに、 ガンだけを取り除いただけでは再発のリスクはなくなるので、当事者がこれまでに所属 した組織を全て廃止にするのが取るべき対応だと考えます。この考えが常識になれば、不 正を働く人は少なくとも減少すると考えます。
※	十分でなかった	何もしてないに等しい。捏造疑惑→自主退職→退職したから調査に協力しない、の繰り返し。 し。
※	十分でなかった	責任を認め、責任者に対して適正な処置がなされていない。
※	十分でなかった	調査内容と結果、その結果を受けてどのような対処がなされたのか、はっきりと国民に報告 していない、もしくは、国民に向けてメッセージを十分に発信できていない。
※	わからない	事例をほとんど知らないなので、判断できない。

質問13. 研究不正の原因はどちらだと思いますか？ <複数回答可>

回答者番号	回答	具体的な原因
※	個人の問題	成果を挙げても認められない体系の中でいかに地位を築くかに重きを置いている研究者は不正を行う可能性が高いと考えます。
※	個人の問題	不正を摘発する構造が未熟だから、不正が生じる、というわけではないと思う。純粋に知りたい事があって研究をしているならば、不正などして真実から遠ざかるという選択肢があり得ない。何のために研究という道を選んだのかを、個人個人が見失わないことが、科学を志す上での前提だと思う。しかし、短期契約のポスドクや助教などで、契約期間内に論文を出すために不正に手を出したくなってしまふ心理がはたらくことは想像できる。不正を正統化している人は論外だし、基本的には個人の問題だと思うが、不正をせざるを得なくなる精神環境に置かれてしまふ人を減らす努力は必要かもしれない。
※	構造の問題	虚栄心で捏造する人もなかにはいるだろうが、大半は「high impactな(ジャーナルに載る)論文を出し続けなければ研究の質を維持できない・職にありつけない」という点に原因があると思う。また、一度アカデミックに進んでしまうと他の職に就く事が難しくなり、自動的に背水の陣となってしまう日本社会の構造も拍車をかけているのではないか。
※	構造の問題	科学体制の構造は、時代に合わせて改善させていかなければいけないと思う。何十年の前の基準が現在に当てはまるとは誰も思っていない。不正はしてはいけない、という原則は当然不変だが、インターネットの普及や、簡単にコピー&ペーストが出来るようになった現在において、規制すべき構造はあると思う。もちろん最終的には研究者個人に委ねられる問題であるが、だからといって個々人を自由にしてよいのではない。ある程度の制限がかかった中で、自由に研究が出来る世界を作らなければいけない。
※	構造の問題	不正でもして無理やり業績を出すまで個人が追い詰められるほど、プロの研究者が生きていくのに辛い環境と、(PIが減多にラボにいなかったりして)ロクに研究の進捗状況「の実際」を把握していない体制が問題だと思う。
※	構造の問題	論文の数・質は獲得できるポジションや科研費に大きな影響を与える。魔がさす人がでてきてもなんら不思議はない。
※	構造の問題	上の立場の人からの圧力。有意義なディスカッションや指導がないにも関わらず結果をだけを求めてくること。
※	構造の問題	研究費の偏りが招いたことであると思う。もう少し奨学から幅広い研究費受給があれば、少なくなると思う。
※	構造の問題	特定の個人の問題である、と問題を矮小化される可能性を有していることが構造的欠陥であり、それ自体が問題だと思う。
※	構造の問題	結果がでなければ生きていけない
※	構造の問題	不正により得られる利益の期待値が高い事が問題だと考えている。発覚したときに払うコストは甚大だが、見つかる確率が低い事こそが問題を深くしていると思われる。
※	構造の問題	もちろん個人の問題ではあるが、そういった個人が研究者になってしまう(研究費が取れてしまう)、あるいは研究者がそういった行為に及んでしまうような体制(結果主義?)がよくないのではないか。結果を出すことが研究者の仕事ではあるが、その結果にどんな意味があるのか自ずから考えられる研究者の育成が必要なのではないか。
※	その他	研究所、研究室の環境が原因であることが多いと思う。
※	その他	日本のラボが密室であり閉鎖的であることも関係しているように思います。
※	その他	過去の不正の実態が調査によって明らかとなり、詳細に報告され自由に閲覧できるようになるまでは、どのような意見も推測の域を出ず無意味である。
※	個人の問題/構造の問題/その他	大学をはじめとする研究機関では数年単位での雇用契約が多く、その短期間にまとめた成果をあげる必要がある。さらに、研究機関のポジションは年々減っており、ポジションを得ることは難しくなっている。そのような状況のもとでは、ポジションを失う恐怖から不正をしてしまうのではないだろうか。一度不正をしてしまうと、不正に対する意識が低下し、再度不正を行うことが促進されていくのではないか。
※	個人の問題/構造の問題	個人の倫理に起因する場合もあると思う。しかし、研究者も人間であり家族もいるため、生活が危くなるなど追い詰められたら不正を働いてでも何とかしないと考えるとしてしまう場合も起こりうると思うから。
※	個人の問題/構造の問題	科学体制として成果主義という考え方が大きすぎる。それに対して不正を行ってでも見かけの成果を出そうとする一部の個人の問題。
※	個人の問題/構造の問題	結果がなければ認められない、つまりは研究費すらままならなくなってしまう体制は、研究の焦り、不正をしても研究費をつなぐという考え方が生まれやすいと感じます。
※	個人の問題/構造の問題	・短すぎる若手研究者の任期・ポストの数とポスドク数の不均衡・プロジェクトベース研究への過剰な資金の一極集中と過剰な期待・期待通りの結果しか認めない、「研究の業務化」・CNS至上主義

質問13. 研究不正の原因はどちらだと思いますか？ <複数回答可>

回答者番号	回答	具体的な原因
※	個人の問題/構造の問題	もちろん個人の道徳意識が最も重要であると思いますが、「成果を早急に要求され、切迫した状況に置かれたことによって研究不正に手を染めてしまう」というような、構造の問題が個人の問題に影響を与えている側面があると思います。
※	個人の問題/構造の問題	個人の問題もあるとは思いますが、ただ、大学院は教育機関にはなっていないと思います。過程がボス次第で違いすぎる。かつ、空気を読めるかどうかと、立ち振る舞いがうまいかでかなりの恩恵の差がある。人前だけでは調子がよく後輩にはつらく当たる人がいるだけで、伝統が受け継げなくなる。ラボという空間が狭すぎるように感じます。
※	構造の問題/その他	テニユアトラック

質問13. 研究不正の原因はどちらだと思いますか？ <複数回答可>

回答者 番号	その他記述
※	研究室単位の問題。上からの圧など。
※	両方が関わっていると思います。
※	雇用条件の問題
※	両方
※	両方
※	両方
※	両方の問題としておいて何ら差し支えない。

質問14. 研究不正を減らすためにはどのような対策が必要ですか？ <複数回答可>

回答者番号	回答	選んだ理由と具体的な対策案
※	教育	厳罰化するより、余裕をもって研究ができる環境づくりをするための調査と、不正が起こらないための教育が必要。
※	教育	研究不正を行わない精神を育成することが大切だと思います。理系大学での研究倫理の単位の必修化。
※	教育	個人や属している研究機関の目先の功を焦るのではなく、科学者としての大道に立ち、「科学の真髄を追求する教育」を行うことが必要と思います。
※	教育	特に、学生(学位をとる前)の教育に重きを置くべき。そもそも不正を犯す可能性のある人物(結果を出すことを最優先にするような人物)は研究の道に進むべきではないし、それを進路決定の前に理解させるべきだと思う。現在の日本の教育体制では、研究室だけで学生の教育を行っている場合がほとんどで、研究室によって教育方針にばらつきがあり過ぎる。特にこういった不正や倫理問題に関しては、研究室に任せるのではなく教育機関もしくは第三者の共通機関が教育を担うべきではないか。研究室以外の研究コミュニティの存在を学生のうちに知っておく必要があると思うし、それを強制してもいいと思う。
※	教育	倫理とかではなく、具体的なステップを示す教育をすべき。
※	厳罰化	不正を働いた本人ならびに関係者は、実刑が妥当だと考えます。そうすることで、その方々は社会的地位を築くことが難しくなり、自分の犯した罪の重さを知ることができます。
※	厳罰化	若手教育は意味なし。やってるのがPIだから。
※	厳罰化	研究不正の罪深さを理解して行っていると考えられるので、教育は現状以上の効果を示さないかもしれない。
※	その他	最低限の研究費の確保とアカデミック以外の分野でのキャリア形成を可能にすること。all or nothingはよろしくない。
※	その他	現在でも研究不正によって罰を受けることは研究者であれば誰もが知っていることなので、厳罰化は意味をなさないと思う。教育も決定的な対策であるとは思えず、研究不正を減らすことは相当困難であると思う。
※	その他	研究者界限はそれが問題だとも、発覚した場合に厳罰があると理解していると考えられるが、現実不正はある。発覚する事がよほど少ないのであれば、不正の利益は下がらないであろう。不正の告発などに、それをきちんと審査する機関などを設けた上で、何らかのインセンティブを与えれば良いのではないか。
※	その他	不正の数を数える方法がなければ不正の増減がわからない。感度良く不正を検出する方法が確立して、その結果、不正の数が見かけ上増加してから、対策を考えてよいと思われる。
※	教育/厳罰化	研究者の中に、科学とは何かという考えがあれば、研究不正は起こらないと思う。
※	教育/厳罰化	まずは教育が一番大事である。コピーをすることが悪いこととは思わない体制の国、人々がいるのは事実なので、厳罰化したところで変わるとは思わない。不正はいけないという原則を教育によってしっかり教えるべきだ。科学だけの世界でなく、産業でも同じであり、社会全体で教えていくべきことだと思う。しっかりと教育を受けて不正は駄目だと分かっておきながら起こす不正は厳重に処罰されるべきと考える。
※	教育/厳罰化	研究不正を含めた倫理観の授業を必修として高校、大学で行うべきである。抑止力の観点からは厳罰化が望まれる。
※	教育/厳罰化	形だけの教育は意味がない。留学生の話や外国の教育はかなり効果がありそうだから、外国人等に指導してもらうなどが考えられると思う
※	教育/その他	教育を行うのも必要だが、厳罰化しすぎると研究者を追い込むことになり、そこまでのリスクを背負って研究をしようと思う人間がいなくなってしまうと思う。

質問14. 研究不正を減らすためにはどのような対策が必要ですか? <複数回答可>

回答者 番号	その他記述
※	テニユアのポストを増やす
※	風通しのいい研究室環境への改善
※	研究生活に余裕を持たせる政策
※	研究職の雇用改善
※	外部の中立機関や学会等による不正行為のチェック体制の組織化
※	・研究者が安心して真実を追える研究環境、雇用状況の実現・分からないから研究するのだ、ということへの役人の理解・内部告発のしやすいシステムづくり
※	何らかの監視機構
※	今回の企画のように、科学界全体で研究不正を許さないという気風を全体的に高めていく試みは非常に有効であると思います。
※	もっと柔軟に研究者を評価する体制。3年で結果出なかったらハイサヨナラ、次からはお金あげないよ、後は野垂れ死んでね、じゃあ悪いこと考える人も出ますよ。
※	研究者の地位の保護
※	告発者に不利益が生じないように、告発が出来る第三者機関の設置
※	マイナー分野への予算増額
※	抽象的な回答になるが、研究不正を容易に監視できるような環境
※	発見率の上昇
※	研究不正を検出する何らかの方法。

質問15. 研究不正や研究倫理への対応に関してのご要望やご意見

回答者 番号	ご要望やご意見
※	不正はもちろんよくないが、対症療法的な解決策でなくて、根本的な解決策を出してほしい。
※	不正はいけないという原則をしっかり教育していくことが重要だと思います。
※	不正なデータ以前に、例えば大学で資格を取る前から放射性同位体の実験を学生にやらせたり(もちろんPIも把握している、というかPIが命令している)、安全対策の見回りが来る日「だけ」、「今日は気をつけろよ」と白衣を着て保護眼鏡をつけて実験させるよう促したり、助教が自分の言うことを聞かないから(食事に付き合わないとか、くだらない理由)学生を殴ったり。人権の観点から、大学は十分に不正の温床です。企業の方が、よっぽど自浄能力が高いのではないのでしょうか。今回のテーマはそういう意味での「不正」ではないみたいですが、こちらも早急に取り上げるべき問題だと思います。
※	上記に書いたように学生の教育が最重要課題ではあるが、そのためには教員の理解・教育も必要である。学生と同じ、もしくは違った観点からの教員向けの教材も用意すべき。そして、それらの教育を半ば強制的にでも教員に受けさせるべきだと思う。
※	不正を起こすのは、正しい科学のやり方がわからないからだだと思います。正しいやり方がわからず結果が出ないから、不正をやっても偉くなりたいと思うのだと思います。「やるべきことを淡々とやりさえすればきちんと一定の結果がでる」というやるべきことリストを具体的に作成することが必要だと思います。結果だけ求めるボス、ボスにこびっているだけのスタッフ、ボスが遠い存在で具体的な相談をできる人がいない大学院生という構図を改善していくことが大事だと思います。倫理だのといった教育は、ちゃんと結果が出さえすれば不正をわざわざやる人もいないのですから必要ないとも思います。厳罰化だって不要だと思います。せっかく日本を代表する研究者たちが集まっているのだから、そういう教科書のようなものを作ってもらいたいです。

質問16. 不正や研究倫理問題に関して、本学会の対応は十分だと思いますか？

回答者 番号	回答	選んだ理由やご意見
※	十分だった	私の知る限り、分子生物学会は、研究不正や研究倫理問題に関して、きちんとした調査を行い、きちんと公平な立場に立った対処をされてきていると思います。また今回の試みを含め、問題に真摯に取り組まれているように感じています。
※	あまり十分でなかった	具体的に何をされたのか分かりません…。
※	十分でなかった	要望書は単なる自己満足。
※	十分でなかった	現状を逐次報告すべき。
※	わからない	対応の内容を知らない。
※	わからない	どのような対策が取られているのかを、知る機会がなかった。
※	わからない	学会として、どの程度のことが現実的に実行可能な対策なのか、わからない。

質問17. 年会における研究不正対応の企画について、どう思いますか？

回答者番号	回答	選んだ理由やご意見
※	やるべきである	研究結果だけでなく、多くの人が集まる機会に研究に関わる様々なことをざっくばらんに議論することもとても有意義で、視野が広まると思うから。
※	やるべきである	学会は研究者の集まりであるからこそ研究者の不正行為を防ぐ対策を講じるべきであり、学会内の自浄に努める必要がある。これを怠ると学会や研究分野に対する信用を失い、やがては科学技術の進歩の障害を招く。
※	やるべきである	学会の役割はよりよい学術の発展への貢献だと思います。学術発表だけに専念するのであれば、小さなシンポジウムで専門家だけでされれば良いのではないのでしょうか。多くの専門領域の研究者が集まる場だからこそ、誰にでも当てはまり学術の将来に大きな影響を与える研究不正という、大きな課題に取り組まなければいけないのだと感じます。
※	やるべきである	不正に関与した会員に対する学会の処置等を明確にしてワークショップで提示されることを望みます。
※	やるべきである	学会は研究発表の場ではありますが、そもそも、その発表された研究自体が不正なものであれば、意味がありません。また、研究を行うということは、皆で協力して科学的知識を構築していくという活動であるので、学会の場で、皆で責任を持って、きちんとした研究活動を実行する環境を作るということは、必須の活動であると思います。
※	やるべきである	大学のセンセイ方は、客観的に見たら自分たちが十分に醜いことをもって把握するべき。「ボクたちはすばらしい研究をしてるんだから、不正とかどうでも良いじゃん、お金もつとちよだいよ」みたいな、瞳に夢をたたえた純真な子供がられても、気持ち悪い。
※	やるべきである	研究発表だけならWebでやればいい。
※	やるべきである	研究不正が大きな社会問題となっているとの認識を植え付けるために必要である。
※	やるべきである	不正に対する意識を共有する場を積極的に提供するのは賛成です。そもそも、各研究室内で過ごすだけでは、不正について意識するチャンスがあまりないので。(何が不正で、何が不正ではないのか、など)
※	やるべきである	研究室の外でそういう話をする機会が必要。
※	やるべきである	色々なイベントがあったほうが面白い。不正をしている研究者は、おそらく不正をせずには研究を継続できないと予想されるため、ワークショップに感化されて、不正の事実を告白して、研究の道から退くということは起こらないだろうと予想される。学会として積極的に研究不正防止に取り組んでいるという姿勢を見せるという点で重要な意義を持つ。
※	ある程度はやるべきである	学術発表とは時間枠を完全に分けて実施するべきだと考えます。
※	ある程度はやるべきである	ワークショップに参加するような熱心な研究者が不正をすることは思えない。対応の仕方などは、意味があると思える。潜在的な不正者には届かないのでは？
※	あまりやるべきでない	ワークショップを行い、不正を未然に防ぐことが目的であれば、やるべきではない。
※	あまりやるべきでない	やったところかわらないと思います。
※	やるべきでない	貴重な出張費を払わせておいて研究の話もせずに倫理講習を受けさせるなんて、数十万払って田舎の生活体験とか言って畑仕事をさせられるようなものだ。
※	わからない	単なる表向きだけの企画であればやる必要はない。具体案(不正をさせないように、教授やリーダーのあり方や実際に不正が起きた時の対応および処罰など)が出て、不正をなくすような対応が実現化するような話し合いの企画であればやるべきだと思うから。ただ、上の立場になればなるほど他人の意見を聞き入れない人が多いので、結局は表面的な企画になるだけだろうと思う。
※	わからない	不正を糾弾するだけの、いじめめ的な会なら不要。建設的になりうるならやってもいいと思います。ただ、本当に必要なのは「やるべきことを淡々とやりさえすればきちんと一定の結果がでる」というやるべきことリストであって、別にパフォーマンスのような企画は不要だと思います。企画に時間を割くくらいなら、リスト作りをする時間をとってほしい。

質問18. 第36回年会で取り上げるべき観点を以下からお選びください。 <複数回答可>

回答者番号	回答	選んだ理由
※	PIの倫理教育	顔出しはいらないので〇〇〇さんの登場・意見を聞きたい。
※	研究不正の背景	研究不正がやってはいけない事というのは誰でも知っているわけであり、なぜ悪いと知っているのに手をだてしまった・出さざるをえなかった背景について文科省も巻き込んで日本の科学界で議論すべき。
※	研究不正の背景	倫理教育は集団としての方向性を導くことはできますが、結局のところは各人に委ねられるので第一に取り扱う必要はないと考えます。
※	その他	研究室のボスが、パワハラ的に要求している結果は、不正を招くと思う。
※	若手の倫理教育/研究不正の背景	不正が起きるには何かしらの背景があるはずである。その原因を共有することが防止につながると考えられる。
※	PIの倫理教育/研究不正への対応策	時代遅れのPIを見かけるから。その時代に合わせた柔軟な対応が出来ていないから。上の人間がきちんとしていけば不正の多くは防げると思う。
※	研究不正の背景/研究不正への対応策	悪いことをするということがダメなことなのは誰でも知っている。それにもかかわらず不正が起きてしまう背景や対応策を議論すべきではないでしょうか。
※	研究不正の背景/研究不正への対応策	研究者の貧困や精神状態(パニック障害や抑うつ症状、虚言癖等)が原因として予想されるが、結局原因は何なのか。不正を働く研究者に共通した形質はあるのか(もし、形質が存在したとして、それは明らかにして良いのか)。研究不正を研究者個人の問題として判断するためには、研究機関は少なくとも研究者に対して研究不正を促進しない環境を維持する必要がある。その環境の具体的内容についてデータに基づいて決めなければならないと考えられる。ただしワークショップで深く議論する必要はない。
※	若手の倫理教育/PIの倫理教育/研究不正の背景/研究不正への対応策	若手、特に学生のうちから、科学者として、研究をするという世界の倫理は学ばせるべきだと感じます。特に、ペーパーテストだけで成長をしてきているので、成績を出すことが重要だと考える学生は非常に多いと感じるからです。
※	若手の倫理教育/PIの倫理教育/研究不正の背景/研究不正への対応策	「なぜ不正したくなるのか」を掘り下げて考えるのが一番大事だと思います。

質問18. 第36回年会で取り上げるべき観点を以下からお選びください。 <複数回答可>

回答者 番号	その他記述
※	教育者の教育体制。
※	倫理、道徳、不正の背景や対応策を学んでも意味がないと思います。具体的な研究の行動指針を示してほしい。

質問19. 第36回年会でのワークショップで、討論するのが適当と思われる相手をお選びください。

回答者 番号	回答	選んだ理由
※	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	実際に不正が行われてしまった時の研究状況は、参考になると考えます。
※	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	不正の背景を知りたい。
※	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	上と同じ。「なぜ不正したくなるのか」を掘り下げて考えるのが一番大事だと思います。
※	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	実際に不正が生じたところであれば、具体的な原因やそれに対する対応方法が聞けるのではないと思うから。
※	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	実際にあった研究不正の例とその対応策が具体的に議論できそうだから。
※	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	不正があった理由を関係者から聞きたい。
※	不正があった研究機関の調査関係者(責任者)	研究不正の実態を、不正について調査した担当者から、伺うことが大切だと思われるため。
※	トップジャーナルの編集者	あえて言うならば、でトップジャーナルの編集者を挙げましたが、ここに挙げた全ての方の意見に興味があります。また研究費助成機関に関しても、長期的研究に対する予算の確立などについて、ご意見を伺いたいです。長期的研究に対する予算も獲得できれば、もっと研究不正は減るかもしれないと思います。結局、予算を取るために、研究不正の多くが行われているように思われるからです。
※	その他	経験談に勝るものはないため
※	その他	どのような人が適当か、すぐには思い浮かびませんが、研究の現場にいる人が討論に参加すべきだと思います。

質問19. 第36回年会でのワークショップで、討論するのが適切と思われる相手をお選びください。

回答者 番号	その他記述
※	過去に不正を行った研究者
※	実際に不正をした研究者
※	学長

質問20. 第36回年会のワークショップの内容に関してのご要望やご意見

回答者 番号	ご要望やご意見
※	昨今、取り沙汰されている日本版NIHでは科研費が削られ特定の応用研究に重点的に資金が配分されると予測されている。それにより、ただでさえ少ない科研費の競争が更に激しくなってしまう、捏造が更に増えてしまうのではないかと危惧している。政府は今後の日本の科学界をどうしたいのか、また我々研究者も政府に対してもっと影響力を持つべきではないのか。単なる捏造関係者の糾弾会で終わらず、研究不正の背景にある日本の科学界の問題点を政府関係者も交えて徹底議論して欲しい。
※	いつもありがとうございます。楽しみに致しております。
※	今大学院生である我々が、今後この道で食っていきけるのかを偉い先生方教えてください。
※	目先の小さな欲望に囚われることなく、社会、世界の役に立つための研究ができるような科学者が増えて欲しいと思います。口先ではなく、心底そのように考えている研究者の方からのお言葉をいただけるようなワークショップになると嬉しいです。
※	不正の実態を正確に説明して頂けると助かります。
※	大学院での教育方針。on the job trainingと称して講義も自分の研究室のテーマをひたすら話すだけ、とするか、きちんと責任もってコースワークを学科で作るか。論文を書くにしても、「ハイ、じゃあ書いて」と突き放すか、「英語論文の書き方講座」のようなものを開いて、頭の使い方の基礎をつけさせるか。日本の大学院は、後者を軽んじているように感じます。上位大学ほど、教授陣は「研究機関としての大学」にばかり誇りを持っているからかも知れません。
※	不正を起こすのは、正しい科学のやり方がわからないからだと思います。正しいやり方がわからず結果が出ないから、不正をやっても偉くなりたいと思うのだと思います。「やるべきことを淡々とやりさえすればきちんと一定の結果がでる」というやるべきことリストを具体的に作成することが必要だと思います。結果だけ求めるボス、ボスにこびているだけのスタッフ、ボスが遠い存在で具体的な相談をできる人がいない大学院生という構図を改善していくことが大事だと思います。倫理だのといった教育は、ちゃんと結果が出さえすれば不正をわざわざやる人もいないのですから必要ないとも思います。厳罰化だって不要だと思います。せっかく日本を代表する研究者たちが集まっているのだから、そういう教科書のようなものを作ってもらいたいです。